

要 旨

本書では、COVID-19のパンデミックを鎮めるべく開発されたワクチンを効率的に配るためのロジスティクスを、理論経済学で最も注目される分野の一つであるマーケットデザインの技術を用いて分析する。ワクチン配布の対象者や、どのような属性を持つ人に優先して接種すべきかなどは、医学の研究を踏まえて決められるべき事項であり、本書では立ち入らないが、ワクチンの供給や、接種会場の運営などにかかわる様々な制約や、接種希望者間の優先順位などが決められた上で、「いつ、誰が、どの会場で接種を受けるか」を指定し、接種事業を円滑に進めるロジスティクスの策定は、効率的な資源配分を研究対象とする経済学が専門とする領域である。

第1章では、COVID-19の感染症としての性質や、配布方法を考察する対象となる「財」であるワクチンの性質、そしてパンデミックがどのような経過をたどったかを概観する。第2章では、このパンデミックの中、筆者らがリアルタイムでどのような取り組みを行ってきたかを紹介する。第3章では、なるべく多くの人に都合がつく予約枠を配分するという形で、接種率を最大化する予約受付の方法について、マッチングサイズを最大化する制度設計という観点から議論する。第4章では、金銭および労力を使い、接種希望者の予約枠に対する選好をスクリーニングする方法について議論する。第5章では、ここまでの議論を踏まえ、先着制・一括制・割当制・招待制などの実務的に用いられた予約システムの長所・短所を比較検討し、もし次にCOVID-19パンデミックと似た大規模災害が起きた際に、どのような形で物資の配分を行えばよいかを整理する。第6章では、上記に分類されない補助金の活用法や、コールセンター等の処理能力の温存の仕方を議論する。

以 上